

Title	東京歯科大学広報 第225号 平成19年07月31日発行
Journal	東京歯科大学広報, (225): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/3789
Right	



東京歯科大学広報



金子 譲学長再任・新人事発令される

平成19年5月31日をもって任期満了を迎えた金子 譲学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、法人理事会からの次期学長推薦の諮問を受け、平成19年3月28日(水)開催の第525回教授会において金子 譲現学長が全会一致で推薦された。教授会の答申を基に、3月30日(金)開催の第643回法人理事会並びに第215回評議員会において金子学長の再任が決定された。

さらに、5月9日(水)開催の第644回法人理事会において、寄附行為施行細則第5条に規定する役職者として、副学長の薬師寺 仁教授、千葉病院長の石井拓男教授、水道橋病院長の柿澤 卓教授、歯科衛生士専門学校長の下野正基教授が現職に再任され、副学長に井出吉信教授、大学院歯学研究科長に柳澤孝彰教授、市川総合病院長に安藤暢敏教授が新任された。また、法人主事に平井義人教授が新任された。

なお、任期は平成19年6月1日から平成22年5月31日までの3年間である。

新役職者の就任に伴い、6月1日(金)午前10時から千葉校舎理事長室において、井上 裕理事長から金子学長以下寄附行為に定められた新役職者に辞令が交付された。

次いで、寄附行為規定役職者を除く新役職者に対する辞令交付が午後1時30分から第一会議室で行われ、山田 了図書館長以下それぞれの新任者に金子学長から辞令が交付された。なお、三病院関係の役職者に対しては、それぞれの病院において、各病院長から辞令が交付された。

2007年 6月

225号

本号の主な内容

- ・金子 譲学長再任・新人事発令される
- ・金子 譲学長就任懇親会開催

- ・ロシア モスクワ国立医科歯科大学との姉妹校協定締結
- ・平成18年度 財務の概要
- ・平成20年度東京歯科大学入学試験要項

学務等役職者

平成19年6月1日付発令

任命期間：平成19年6月1日～平成22年5月31日（定年退職者は当該日まで）

診療科部長・診療科科長・教育主任の任命期間：平成19年6月1日～平成20年5月31日

寄附行為規定役職者等

学 長 金子 譲
 副学 長 薬師寺 仁
 副学 長 井出 吉信
 千葉病院 長 石井 拓男
 市川総合病院 長 安藤 暢敏
 水道橋病院 長 柿澤 卓
 大学院歯学研究科 長 柳澤 孝彰
 歯科衛生士専門学校 長 下野 正基
 法人 主 事 平井 義人

実験動物施設管理部長 田崎 雅和
 広報・公開講座部長 内山 健志
 臨床教育委員長 一戸 達也
 臨床研修委員長 角田 正健
 総合講義・実習委員長 一戸 達也
 臨床基礎実習室運営委員長 中川 寛一
 健康管理センター主任 小樽 二世
 情報システム管理委員長 河田 英司
 アイソトープ安全委員会委員長 石原 和幸
 アイソトープ研究施設管理部長 石原 和幸
 アイソトープ研究施設放射線管理室長 佐藤 裕
 歯科医学教育開発センター主任 河田 英司

大学

図書館 長 山田 了
 図書館副館長 高畑 悟郎
 図書館分館長 丸茂 健
 図書館分館長 堀田 宏巳
 口腔科学研究センター所長 奥田 克爾
 教養科目協議会幹事 橋本 正次
 基礎教授連絡会幹事 川口 充
 臨床教授連絡会幹事 柴原 孝彦
 教務部長 小田 豊
 教務部副部長 柴原 孝彦
 教務部副部長 河田 英司
 教務部副部長 佐野 司
 教務部副部長 望月 隆二
 学生部長 佐藤 亨
 学生部副部長 矢島 安朝
 学生部副部長 中村 光博
 学生部副部長 茂木 悦子
 研究部長 水口 清
 研究部副部長 石上 恵一
 研究部副部長 阿部 伸一
 国際渉外部長 井上 孝
 学術出版部長 櫻井 薫
 歯科学報主任 櫻井 薫
 欧文紀要主任 水口 清
 研究機器管理部長 石原 和幸
 アイソトープ研究室主任 佐藤 裕
 環境安全管理部長 松久保 隆

大学院研究科

教務部長 川口 充
 学生部長 一戸 達也

千葉病院

副病院長 高野 伸夫
 副病院長 井上 孝
 副病院長 中川 寛一
 保存科部長 山田 了
 小児歯科部長 薬師寺 仁
 小児歯科部長代理 関口 浩
 口腔外科部長 高野 伸夫
 歯科麻酔科部長 一戸 達也
 補綴科部長 櫻井 薫
 矯正歯科部長事務代理 石井 拓男
 放射線科部長 佐野 司
 総合診療科科長 角田 正健
 スポーツ歯科科長 石上 恵一
 口腔インプラント科科長 矢島 安朝
 内科科長 小樽 二世
 臨床検査部長 井上 孝
 総合予診室長 佐野 司

市川総合病院

副病院長 山根 源之夫
 副病院長 森下 鉄夫

企画・調査部長	高橋正憲	口腔がんセンター長	山根源之
歯科・口腔外科部長	山根源之	水道橋病院	
内科部長	森下鉄夫	副院長	榎石武美
循環器科部長	大木貴博	総合歯科科長	古澤成博
消化器科部長	西田次郎	口腔外科科長	柿澤卓
小児科部長	田中葉子	口腔外科科長代理	高野正行
外科部長	安藤暢敏	矯正歯科科長	末石研二
脳神経外科部長	菅貞郎	小児歯科科長	大多和由美
心臓血管外科部長	申範圭	小児歯科科長代理	柿澤卓
整形外科部長	白石建	歯科麻酔科科長	福田謙一
リハビリテーション科部長	高橋正憲	口腔インプラント科科長	関根秀志
産婦人科部長	高松潔	内科科長	仁科牧子
眼科部長	島崎潤	眼科科長	ピッセン宮島弘子
耳鼻咽喉科部長	中島庸也	水道橋病院教育主任	古澤成博
皮膚科部長	高橋慎一	歯科衛生士専門学校	
泌尿器科部長	丸茂健	副校長	眞木吉信
放射線科部長	青柳裕	教務部長	嶋村一郎
麻酔科部長	小坂橋俊哉	学生部長	橋本貞充
精神・神経科部長	吉野文浩	予防処置室長	嶋村一郎
臨床検査科部長	宮内潤	教務主任	白鳥たかみ
市川総合病院歯科教育主任	外木守雄		
市川総合病院医科教育主任	西田次郎		
角膜センター長	篠崎尚史		
リプロダクションセンター長	石川博通		

歯科衛生士専門学校の教務主任の任期：平成19年4月1日～平成20年3月31日

学長就任式挙行

金子 謙学長の就任に伴い、学長就任式が平成19年6月1日(金)午後6時から千葉校舎講堂において挙行された。

式は、熱田俊之助法人常務理事、青木栄夫父兄会長、鹿島 隆雄法人理事、大山萬夫法人監事ご臨席のもと、教職員、臨床研修歯科医、大学

院生が列席し、小田 豊教務部長の司会により開式された。

井上 裕理事長が祝辞を述べられた後、金子学長が就任の挨拶をされ、全教職員が協力して職責を全うしていきたい旨の挨拶をされた。次いで小田教務部長から新役職者の紹介が行われ、就任式を滞りなく終了した。



井上理事長より辞令を受け取られる金子学長：平成19年6月1日(金) 千葉校舎理事長室



井上理事長を囲む新役職者：平成19年6月1日(金) 千葉校舎理事長室

祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 井 上 裕

本日、6月1日午前10時寄附行為に規程する役職者金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、井出吉信副学長を始め、海外出張中の下野正基歯科衛生士専門学校長を除いた8名の先生に辞令を交付いたしました。

3年前の6月1日に、金子学長は新学長として選任されました。金子学長は就任早々に私立歯科大学協会の副会長に推挙され、昨年10月に横浜で開催されました国際歯科麻酔学会議では大会長として責務を果たし、三笠宮殿下ご臨席の下に厳粛にかつ盛大に学会を挙行されたことは記憶に新しいところであります。最近では日本歯科医学会会長賞(研究部門)を受賞され、これも大勢の皆様のご支援の賜と思いますが、改めて私からもお祝いを申しあげます。今日は、良い機会でありますので、私が考えていることを申しあげたいと思います。

はじめに、学校法人の第一の目的は、建学の精神に基づき、個性と特色のある質の高い教育を展開し人材育成を図り、社会の発展に貢献することであると思っております。学校法人の組織は、この目的を達成するために構築され、機能しなければなりません。ここ数年、企業の社会的責任が各メディアに大きく取り上げられております。本学でも大学の社会的責任について取り組んでいるところであります。

私立学校法の改正に併せて、寄付行為を改正し、理事会、評議員会、理事長、理事、監事の役割を明確にするとともに学校法人の運営に多様な意見を採り入れる観点から、理事に外部の人材を登用し、組織機能を強化しております。他大学では殆どの理事が同窓で占められている中、本学は文科省の通達が出る15年前から実施しております。本学の理事には、国立大学学長経験者、銀行頭取経験者、文部省事務次官や文化庁長官をはじめとし、最近では市川総合病院の病院長を経験されて、現在は慶應大学傘下の病院で理事長をお務めの水野嘉夫先生をお迎えしました。

また、監事も同様でありまして、私自身、監事を20年位前に務めました。その時は五十嵐堯昭同窓会長と二人でした。現在は新日本監査法人が厳格な監査を行っておりますが、学校法人自らも岡村泰孝・大山萬夫両監事にご協力頂きながら、監査体制の強化にも務め、社会からの信頼に応えるべく法人運営の透明性の充実を図っております。現在、文科省等で言われている理事会機能の明確化という点で、本学は先見の目を持って10数年前に計画し実践してきたという自負心を持っております。

本学は、3年後の平成22年に創立120周年を迎えます。これまでの歴史の中で、着々と施設の充実をはかりながら、歯科医学教育を通して、社会に貢献する人材を培って参りました。今までにない学校経営の厳しい社会環境の中、金子学長以下教職員一丸となって教育、研究、臨床の発展に熱心に取り組んでおります。

一昨日、平成18年度決算を理事会、評議員会でご承認頂きました。3.16%という全く想像もしない診療報酬の引き下げの現状下において3病院では、歯科臨床研修での人件費増などもあり、当初の目標達成は難しいと言ったことでしたが、三病院長をはじめ、みなさんのお骨折りのお陰で、昨年をやや上回る黒字決算となったことは大きな喜びであります。今年度、本学以外で黒字決算となったところは皆無と思っております。これもひとえに金子学長を中心として教職員が一体となった結束の賜であります。理事長として心から感謝を申し上げます。

この時の理事会、評議員会では、規定役職から、「学監職」を削除いたしました。永井事務局長から文科省等に問い合わせたところ、学監職は、歯科大学、医科大学には無く、また各総合大学においても一校だけ高野山大学に残っているのみで、殆ど使用されておらず現在の実態に則して削除することで理事会、評議員会の承認をいただきました。

最後になりますが、マスコミを通じて同窓会の不祥事が大きく報道されております。現在捜査中でありますのでお話しすることはありませんが、法人として、また大学として一切関与しておりませんのでご安心下さい。同窓会の一部でこの様な問題があり、皆様方が大変肩身の狭い思いをなされておりますことに深くお詫び申し上げます。

何はともあれ、今後3年間金子学長を中心として皆様のなお一層のご支援とご理解を心から念じましてご挨拶と致します。

学長就任のご挨拶



金子 譲

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。始めに、昨日までの三年間に対するお礼を申し上げたいと思います。一つは、井上 裕理事長はじめ、理事、評議員の先生方との意思の疎通ができて、多数の案件を無事に通過をさせていただき、この三年間は学務運営に支障をきたすことなく、ご支援をいただきながら務めさせていただくことができました。また、寄附行為規定役職の方々や大学の学務等役職者には、それぞれ責任をもって務めていただき、大変大きな役割を果たしていただいたと思っております。同時に教職員の皆様方のご協力に対しましても、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

制度改革と大学の使命

さて、本日から大きな制度改革があり、本学は学監制を廃止し副学長による担当制として、学務を執行していくこととなりました。これは、時流に合わせた形での決定であり、役割の拡大・充実を目指していきたいと考えております。そのような意味でも、今後、学務等役職者の方々とは面談の機会を作ってお願いをしていきたいと思っております。副学長の担当につきましては、大まかに薬師寺 仁副学長には大学の管理・運営面での総務、三病院についての事柄、そして財務。井出吉信副学長には教育・研究、そして三年後に迎える120周年に係る役割を担って頂くつもりであります。この三年間は大変重要な時期と認識しております。今後は大学の二極化は加速し、本学にとって、いや日本のすべての大学にとって正に分水嶺の三年間になると思っております。

三施設を有している本学は、学生や教職員数を合わせると約2,500名にもなる非常に大きな規模を持ち、また三病院の年間の患者延総数は約935,000人になります。つまり、本学に雇用されている教職員、そして学生や患者さんに対して、井上理事長をはじめとする法人、そして我々一人一人も非常に大きな責任を背負っております。このような観点からも財務の感覚を持ちながら、学務を執行していくという基本的な考え方が必要であると考えております。そのためにも、教育・研究・診療という中で本学が果たしている大学としてのレベルをさらに向上させ、次の時代に繋げていくことが、学長の役割であり責務であろうと考えております。また、大学の使命は一にも二にも人材育成であり、これを良い環境で行い、良い形で継続していくことでもあります。それぞれの立場で、その認識の下で計画を立て、戦略を練り、実行そして評価のサイクルで取組を進めていくことが重要です。

現在は皆さんもご存じのように「少子高齢化」の時代であり、約40%の大学が入学定員を欠き、約25%の大学が経営上赤字という現状があります。この10年間でまさに大学環境は激変したといっても過言ではありません。では、我々がこの大波に飲み込まれないためには、どのようにしたらよいのかということですが、それはやはり大学がハイブリッド型になる必要があるということです。燃費を少なくして(スリム化)機能を高めていくことを教職員一人一人が常に意識していくことが大切です。

教育・研究・診療

さて、ここでは今後の各分野における目標や課題等を簡単に述べさせていただきます。まず教育ですが、これは高レベルの人材育成が重要であり、医療の倫理が叫ばれている今日、ただ単に国家試験の合格を目指すだけでなく、人間性の涵養をも同時に求められております。歯科医師国家試験の合格率が90%台の大学から40%台の大学まで存在する状況のなか、歯科大学の教育の在り方そのものが、問われ

ているということを認識しておかなければなりません。様々な意味で、今後の学生には次の時代の準備を希望をもってしていけるような教育をすることが重要であると思っています。

研究については、口腔科学研究センターの充実はもちろんのことですが、科学研究遂行のためには、競争的資金の獲得が大命題ですので、まずそのレースに参加することが重要です。本学はそのレースには常に参加しているという自負はありますが、今後はCOEの獲得を目標とした取り組みをしていく必要があると考えております。また、研究部においては、英語論文の推進や本学の研究に関する現状分析を行って欲しいと思っています。

病院については、良い病院に向けて、臨床力の向上を図っていく必要があります。そのためにも、自分たちでもう一度、評価をし直すことが重要です。現在ある三病院を有機的に機能させることが大切ですので、新人養成の仕方など従前の仕組みを見直す時期にきているのではないかと考えております。特にレジデントや臨床研修歯科医師については、財務状況や研修効果等を鑑みて、現状の人数や配置などが適切になされているのか、再考の余地があるのではないかと考えています。また医療においては、大学は教育病院という側面を持ちながらも、「患者さん中心の医療」、患者さんに対して良質の医療の提供が求められています。現在は医療のパラダイムが変化しており、高齢化時代に即した歯科医療の対応が必至になってきており、本学にはまだ高齢者歯科という名を付けたものはありませんが、今後は設置を検討していくことが必要かと思えます。また、歯科と全身医療との関わりという観点からは、法律上の問題もあるのですが、それを乗り越えて患者さんのニーズに適切に対応していく責任があると思います。そのような意味では市川総合病院に開設しました口腔がんセンターを大いに利用しながら、歯科医療の向上を目指していけたらと考えております。

講座改革・国際化の推進

講座ですが、本年の4月より職名変更に伴った任期制を全教員に実施させていただきましたが、これはあくまでもそれぞれの目標の提示・設定をしやすくするためのものであり、決して解雇のためのものではありません。講座主任の方々は、今後マネジメント能力が講座の役割を果たしていくうえで非常に重要になりますので、正しい認識と的確な対応を取っていただくようお願い致します。それから、講座研究費に関しましては、今後二重構造にしたいと考えております。既定講座研究費を25%削減し、これを財源に競争的講座研究費を設け、教育研究の活性化を図ります。配分については委員会を設置し、人材育成や国際化等の観点から評価し、資金の重点投資を行っていかうと思えます。また大学院は、世界のリーダーとなれる人物の養成を目指して、重点的課題の一つとして、積極的な取り組みをしていかうと考えております。

国際化への対応ですが、国際化の進展の中で、本学においても積極的に役割を果たしていくことが大切です。留学生の受け入れ、派遣の推進、また姉妹校についても中国、台湾に続き、本年はロシアのモスクワ国立医科歯科大学と締結を致します。名前だけではなく内容を充実させ、意味のある交流を行っていきたいと思います。

「チームワーク」

簡単ではありますが、今後三年間の方向性を述べさせて頂きました。最後になりますが、これらの事柄を無事に行っていくためには、まず本学の財務基盤をしっかりと確立しながら行っていくことが最重要であります。また医療現場等、厳しい環境の中にはあるのですが、コンプライアンスを自覚し、業務を遂行していくことを忘れないで下さい。いずれにせよ、今後三年間は大きな過渡期であります。全教職員の「チームワーク」によって東京歯科大学の未来を切り開いていきたいと思えます。そのためには、皆様のご協力がなければ、先に進むことができません。皆さまのご協力とご支援を心よりお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

副学長就任のご挨拶



薬師寺 仁

6月1日付けを以て金子 讓学長の再任に伴い、副学長職の大役を再度拝命いたしました。もとより浅学非才の身ではありますが、金子学長の意をたいし、大学運営に微力を尽くす所存であります。

この度の学務役職者の選任に際しましては金子学長の大学運営方針によって、学校法人東京歯科大学寄付行為細則の改正を図り、学監職を廃止し、2名の副学長がそれぞれ所管事項を定め、学長を補佐することになりました。学監職は、大正9年の設置以来、本学の日常業務の提要となる職制ではありましたが、この度の職制改革によって、従来にもまして学長の大学運営方針に基づく学務運営が図られることになりました。新たに就任されました井出吉信副学長共々、学長との緊

密な意思疎通の下に学務運営に当たりたいと存じます。

副学長の担当職務につきましては、金子学長の指示によって、不肖私が総務事項、三病院ならびに財務を、井出副学長が教育・研究ならびに明後年の2010年に迎える本学120周年記念事業・行事に関する事項を所管することになりました。学内各職域の皆様のご協力、ご支援をお願いしたいと存じます。

さて、昨年8月末に公表されました文部科学大臣と厚生労働大臣の合意文書には、歯科大学・歯学部の入学者数のさらなる削減ならびに歯科医師国家試験の合格基準の引き上げが明記されております。そのいずれにつきましても、本学の運営に多大な影響を及ぼす内容であることは明らかであります。克てて加えて、少子化による大学全入時代の到来、総医療費削減政策など、大学を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。この難局を乗り越え、金子学長が就任式で示された向後3年間の本学が進むべき方向に向かって邁進してゆくためには、本学構成員が一致団結して、その職務に当たることが肝要であります。

ここに倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。

副学長就任のご挨拶



井出 吉信

このたび大学役職者の任期満了にともなう人事異動にあたり、金子 讓学長のもとで副学長の大役を拝命いたしました。改めてその責務の重大さを感じ身の引き締まる思いであります。今期から2副学長制となり薬師寺 仁副学長と共に金子学長を補佐する職務に全力を尽くす所存であります。私の任務は主として学務と研究部門の担当であり、また3年後の2010年に迎える東京歯科大学創立120周年における記念事業準備の大役も仰せ付

かっております。

現在、医学・歯学教育の在り方が問われており、歯科医学教育は「全人的医療、多様化した医療への対応、基本的臨床能力の向上、医療事故抑止」などを旨として改革が進められております。さらに歯科医師国家試験における相対評価の導入など歯科医学教育を取り巻く状況は大変厳しくなっております。このような状況の中で、本学の学務としましては、如何に独自性を有する優秀な学生を確保し、その学生の勉学意欲を喚起するような勉学環境および東京歯科大学独自の魅力あるカリキュラムを構築し、国民から信頼される優秀な歯科医師を世に送り出すが課題であり、この対策が急務であると考えております。

研究の面では、今期就任された大学院歯学研究科長・柳澤孝彰教授、研究部長・水口 清教授と綿密な連繫をとりながら、各講座・各研究室

単位の研究向上のみならず、他講座・研究室とが協力して研究を行うことができる環境をつくり、東京歯科大学として世界に通じる研究の成果が上げられるような研究環境・研究システムを整備する所存であります。

本学は、正に創立120周年を迎えようとしております。この機に伝統を総括し、さらなる歴史を継承するために時局に鑑みて今後の進むべき方向性を見直す必要があります。

これからの新たな大学の展開として、教育設

備の更なる拡充と千葉病院、水道橋病院ならびに市川総合病院の充実などが考えられております。しかし私立大学といたしましては、入学定員数の削減や医療費の抑制による財政上の対策など課題が山積しております。

このような現状の中、大任を果たすことができるか大いに危惧しておりますが、粉骨砕身してことに当たる所存であります。皆様方のご協力とご鞭撻を心からお願いして、就任のご挨拶とさせていただきます。

千葉病院長就任のご挨拶



石井拓男

歯科医師臨床研修の必修化が開始された平成18年は、歯科大学を初め、歯科界にとって歴史的な年でありました。共用試験の正式実施とも重なり、平成18年をめざして東京歯科大学の千葉病院も準備に多くの人力と時間を費やしてきました。私自身、平成16年に千葉病院長を拝命してからの3年間は、臨床研修を真ん中に置いた病院の制度とシステム作りに追われて参りました。関係者皆様のご尽力により、どうにか無事に所期の目的を果たすことが出来たと思います。

この度、平成19年から再び千葉病院長の職を仰せつかりました。まだまだ、果たすべき課題

が残っている、ということかと気を引き締めた次第であります。確かに、平成18年に制定された医療改革の波は、平成20年から本格的に歯科医療界にも及んで参ります。千葉病院でこれまでに設置した医療安全や個人情報保護についての組織は、さらなる向上がもとめられます。また、医療連携も法的な背景を持ってより以上の病院機能を発揮することが必要となります。電子カルテを初め、病院のIT化は必須のものとなります。この準備は、千葉病院ではまだ緒に付いたばかりであります。

法令順守を徹底しながら、患者中心の歯科医療の提供を推進する一方、学生の臨床実習と臨床研修歯科医の研修をより実のあるものにして行くことが、大学病院には求められております。これまでの3年間は、課せられた課題をこなすことで終始した感があります。これからの3年間は、積極的に打って出ることも求められることと思います。皆様の叱咤と激励を糧としてまいりたいと存じます。

市川総合病院長就任のご挨拶



安藤暢敏

市川総合病院院長就任に際し500人の入院患者さんと、1日約1400人の外来患者さんに対応する670名の全職員のかなめとなる責の重さを、ひしひしと感じております。

皆様もおわかりのように、現在我が国の医療の現場は逆風にさらされています。昨年行われた3.16%の診療報酬引き下げ、介護病床の削減など、厚労省はなり振り構わずに総医療費抑制策を押し付けてきます。市川総合病院は、逆風に

加えさらに二つの大きな低気圧の影響を受けています。その一つは芳しくない財務状況です。病院収支は17年度、18年度決算とも連続赤字でした。二つ目は近隣の病院へのメジャーな大学進出のうわさです。

この二つの課題へ取り組む姿勢は、財務状況を良くするために、ただ収益さえ上げればよいという訳ではありません。医療の質のある水準に保つために、安定した財務状況を確保することが目的です。外圧に備え私たちが日頃から心掛けなければならないことは、地域の中核病院、医育機関に相応しい病院の体力をつけることです。病院の体力をつけるということは、私たちの病院をブランド力を持った一流の病院にすることです。それには医師、歯科医師が中心となってコメディカルも含め診療・教育そして研究をバランス良く行うことです。さらに具体的には、医療安全管理と

地域医療連携、そして卒後臨床研修を含めた三つの機能を重点的に強化・充実したいと考えております。いずれも地味な領域ですが、日々の積み重ねが必ず効果に結びつく重要な領域です。来年4月からはよいよDPC包括制度もスタートし、それに向けてのメデイカル、コメディカル一体となったスイッチの切り替えも必要です。

17年度決算をうけて昨年から強化した収支改善へ向けての活動や、各職域での経費削減の意識の高まりなどの効果が少しずつ現れ始めています。また、市川総合病院には昨年3月の病院機能評価更新審査の際に発揮した目標へ向かう底力があります。私たちの病院はこれらの課題を解決しつつ必ずやさらに上を目指せるものと確信しております。

皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げ、私の院長就任挨拶とさせていただきます。

水道橋病院院長就任のご挨拶



柿澤 卓

この度、水道橋病院病院長を再び拝命し、さらに3年間水道橋をお預かりすることになりましたが、改めて病院運営の難しさを痛感している次第です。当初、医療の質向上、医療サービス推進、医療実績向上を目標に、「思い遣りの心に依る医療」を理念として掲げ、臨床面でのキーホスピタルを目指してまいりました。平成17年度には口腔健康臨床科学講座としても承認され、人事面での裁量も許されるようになり、水道橋病院独自の運営が容易になりました。

さて、特に水道橋病院の場合、医療の質やサービス向上は、黒字採算がベースであるため、これらを低下させることなく、診療実績を向上させるよう、病診連携を踏まえ基幹的歯科病院構想に基づいた病院機能機構改革に取り組んでまいりました。現在、高次・高度歯科医療部門と順次

整備を進めており、その一環として従来の保存科・補綴科・総合歯科を思い切って総合歯科に統合する大改革を実施しました。

新総合歯科では、特別な専門性を要さない歯科治療を担当させ、特に専門性の高い治療は高度歯科医療部門で集学的に治療するような形態としました。新総合歯科は、評価制を取り入れた効率的なチーム診療体制としました。他では追従できない大きな改革ですが、特に問題もなく、まだ発足間もない時点ですが診療意識も向上し、確実な成果が見えつつある状況です。

昨年度は本院にとりまして極めて厳しい試練の年でしたが、これを梃子に改革を進め、医療の質向上、医療サービス推進、臨床研究促進を視野に、黒字転換に向けて医療実績の向上を引き続き強力に進めていく所存です。そして、確固たる経営基盤の確立の上に、つぎの目標として病院の本来の使命である社会貢献に寄与する臨床力みなぎる施設に、水道橋病院を発展させてまいりたいと考えております。

大学院歯学研究科長就任のご挨拶



柳澤孝彰

この度、東京歯科大学大学院歯学研究科長を拝命し、その重責に身の引き締まる思いがいたします。浅学非才ではありますが、大学院の発展に微力ながら努める所存でございます。

文部科学省は大学院教育に対する中教審の答申を受け、大学院教育の実質化と国際的な通用性および信頼性の向上についての基本的な考え方を示しました。これは大学院への進学率が上昇してきたこと、知識基盤社会の到来に伴い大学院の重要性が飛躍的に増大したことなどがその背景にあり、真の科学技術創造立国の実現に向けた人材の養成が急務となってきたからです。本学大学院がこれに応えるには人材養成目的の明確化および体系的な教育プログラムを編成すると共にそれを支援する教育体制を強化する必要があります。現在

行われているコースワークを更に充実させること、教員の教育・研究指導能力の向上を図ることなども必要になるでしょう。

そこでまず最初に、(1)世界に通用し、歯科臨床に成果を還元できるすぐれた歯科医学研究者(Global Scientist)の養成、(2)高度な専門知識と技能を備えた専門歯科(Super Dentist)の養成、(3)口腔癌の早期発見能力を含む幅広い素養を備えた一般歯科医(Oral Physician)の養成、という3つの人材養成目的を明確にすべく準備を始めました。研究の質の担保については奥田克爾前研究科長もこのことを念頭に置かれて努力された結果、大学院生の提出する学位論文の全てが国際誌に投稿されるようになってきておりますので、その質を更に高める方策を構築するつもりでおります。教員の指導能力を高めることはこれに直結しますので、その努力も今以上に行うつもりでおります。幸いにして、大学院には優秀な教務部長と学生部長、さらには卓抜した事務スタッフが揃っておりますので、一致協力して頑張る所存でございます。

皆様方におかれましても、従前にも増すご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

歯科衛生士専門学校長就任のご挨拶



下野正基

このたび、歯科衛生士専門学校長に再任されました。過去3年間の経験を活かしながら、また優秀なスタッフに支えられながら、任務を全うしたいと考えております。

高齢社会を迎えた今、疾病構造の変化と関連して、健康に対する国民の考え方が大きく変化しています。医療の分野では、これまで疾病の状態にのみ高い関心が払われてきましたが、近年では患者のwell-beingやQOLについても考慮さ

れ、その重要性が認識されています。

口腔疾患についても疾病予防と口腔疾患が注目され、「キュアからケアへ」といわれるように、ケアが予防の中心におかれるようになってきています。口腔疾患の予防や健康増進の視点から、歯科衛生士によるケアは疾病を有する患者に限定されるものではなく、健康な人にも提供されるようになり、歯科衛生士が活躍する場は今後ますます広がっていくでしょう。また、誤嚥性肺炎の予防など、高齢者の口腔ケアと全身の健康とが密接に関連することがエビデンスとして提示されるようになってきました。これに伴い、総合病院が入院患者の口腔ケアの重要性を認識し、歯科衛生士の知識と技術を求めるようになりました。このような社会的背景を反映して、今春はじめて3年制カリキュラムを修了した本校の卒業生のうち、約4割(44名中17名)が総合病院に就職することができました。

社会が求めるニーズに対して、自発的・前向きに業務を遂行できる有能な歯科衛生士を育成するため、教員一丸となって努力するつもりです。

どうか、皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

法人主事就任のご挨拶



平井 義人

このたび金子 譲学長の再任にともない法人主事を拝命しました。非力では有りますが、井上 裕理事長、金子学長をお助けし、より健全な大学運営が行えるよう最善を尽くす所存であります。

本学も平成22年に創立120周年を迎えることとなり、記念事業を行うべく準備委員会も立ち上がっております。これにともなって、現在購入している水道橋・白山通りに面した土地を如何に有意義に活用するかが大きな問題となってきます。すなわち、この先40～50年を予測した土地の有効利用を考慮しなければなりません。

職員の皆様には、年々、各部署とも従前より業務内容が多岐にわたっており残業時間も個人によって長時間になっています。長期間にわたって家庭におけるプライベートの時間が少なくなると精神的、肉体的に疲労し、作業能率の低下や適切な判断が出来なくなる可能性があります。各部署の長は、この点を十分に配慮していただき、楽しく働ける職場にするよう一層の努力をしていただきたいと思います。

何れにしましても、少子社会の到来、臨床研修医制度の義務化さらに近い将来に行われるであろう定員削減など大学を取り巻く状況は非常に厳しいものがあります。しかしながら教職員一丸となってこの困難にうち勝たねばなりません。

私に課せられた職務は、法人と大学との橋渡しで、計画が速やかに実行に移せるような環境作りであると考えております。また、本学のさらなる発展のため、教職員の皆様の更なるご協力、ご鞭撻を賜りますようお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。

図書館長就任のご挨拶



山田 了

6月1日をもちまして図書館長を拝命し、その責任と職務の重大さを感じている次第であります。

従来、図書館を円滑に運営していくうえで業務として1.総務系：庶務、人事、会計、図書受入、用度、統計、調査、2.閲覧系：参考業務、利用指導、貸出業務、複写業務、3.整理系：分類、目録、目録編集、視聴覚資料整理、逐次刊行物の整理など、この3系列があげられます。近

年、日本の構造改革が進むなかでIT革命は、目を見張る勢いで急速に進められています。このIT革命は、図書館においても構造改革をもたらし、先にあげた3系列に加えて重要な第4系列として情報システム管理・運用系が立ち上げられています。すなわち、東京歯科大学においても歯科医学雑誌の電子ジャーナルの導入を急速に進めて、教職員が、わざわざ図書館に足を運ぶことなく論文作成に必要な最新の文献検索を個人のPC上で行い、手元のプリンターで必要な論文を入手しています。

本図書館で行った電子ジャーナル接続タイトル数も平成16年に比較して平成18年には5倍にも増加しました。さらに、電子ジャーナルのメリットとして3キャンパス内(千葉・市川・水道橋)設置の各PCにて随時閲覧が可能となり教員にとって最新情報の入手が可能となっています。さらに東

京歯科大学が目指している図書館におけるIT化のひとつとして、東京歯科大学学術機関リポジトリを立ち上げます。

機関リポジトリは、論文を中心とした学術成果を電子化し、累積的かつ永続的に保存するものであり、東京歯科大学の学術情報をインターネットを通して世界にオープンに発信するものがあります。この事業に対し、本学は、国立情報学

研究所の平成19年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業公募申請で採択され、200万円を獲得しました。今後は、さらに図書館のデジタル情報化を進め、最新の情報の入手の簡素化と東京歯科大学の学術成果の世界への発信と従来の職責を図書館職員と一致して全うしてまいります。是非、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

口腔科学研究センター所長就任のご挨拶



奥田 克爾

大学の使命は教育・研究である。東京歯科大学は前学長石川達也先生の強いリーダーシップのもと1996年ハイテクリサーチセンター(HRC)を立ち上げた。研究面でも歯科界のリーダーシップをとるといふスタンスがあったからである。そのHRCの口腔科学研究センターの成果は、各分野のトップジャーナルで世界に発信されるようになってきている。口腔科学研究は、歯科界のトップジャーナルJ. Dental Researchなどに掲載されるようになってきたし、PainやInfection and Immunityなどの医学雑誌に発表されるようになってきた。

研究分野では、Publish or Perishすなわち論文で世界に発信できないものは大学の教員としてふさわしくなく、研究から手を引きなさいという意味である。大学・大学院教育には、世界に通用する教育者の研究を通じた最新情報がなければ高等教育とは言えない。

本学大学院は、口腔科学研究センターのエネルギーに後押しされながら充実してきた。例えば、大学院の学位論文はほとんどが国際雑誌で発表されるようになった。口腔科学研究センター長に任ぜられた今、これまでの大学院歯学研究科長同様に東京歯科大学の研究を世界のパイオニアのものにすべき「縁の下の力持ち」として働く所存である。一番の使命は、世界に羽ばたく若手研究者の育成である。水準の高い研究を推進する研究者養成は、大学院指導教員のレベルアップに繋がり、彼らが東京歯科大学の教育・研究の推進者になることは間違いない。口腔科学研究センター長として、世界水準の研究推進者育成に努力したい。

教務部長就任のご挨拶



小田 豊

このたび、教務部長を継続して拝命することになり、その責任と職務の重大さを強く感じているところです。

金子 譲学長の下で3年間教務部長を勤めさせて頂きましたが、この間に文部科学省の総合的教育取組支援である「特色ある大学教育支援プログラム：特色GP」「現代的教育ニーズ取組支援プログラム：現代GP」の両プログラムに歯科の単科大学としてはじめて採択されたことや、歯科医学教育開発センターの設置など、画期的な出来事があり本学の歯学教育に対する社会的評価の高揚と更なる発展が期待されております。また、平成17年から正式実施されてきた共用試験(CBT, OSCE)、平成18年からの歯科臨床研修医制度義務化など、歯科医学教育を取り巻く環境は否応

無しの変革が迫られております。

本学では教務部を中心として、このような歯学を取り巻く環境の変化やニーズに対応して、統合型カリキュラム、シラバス(授業要覧)の充実、ハイブリッドPBLの導入による学習方法の改善、など教育内容と学習方法の改善に取り組むと共に、教育ワークショップ、教育セミナーなど教員のFDも積極的に行っております。

教務部が当面している課題としては、教育改善への組織的な取り組みとしての教育能力の向上、隣接医学教育カリキュラムの充実・強

化、臨床実習中の教育フレーム改善、能力対応のアドバンスプログラム構築、e-Learningを活用した統合的理解の推進、自主的・能動的学習の習慣形成の促進、など多様な課題がありますが、柴原孝彦教授、佐野 司教授、河田英司教授、望月隆二准教授の各教務副部長、ならびに小林友忠教務課長をはじめとする教務課職員と共に一致協力して職責を全うしたいと考えております。

全学の教職員の皆様方の一層のご支援とご協力をお願いして、就任の挨拶とさせていただきます。

学生部長就任のご挨拶



佐藤 亨

このたび6月1日付をもちまして学生部長を拝命いたしました。これまで、4回の学年副主任、2回の学年主任、また学生部副部長を務め、学生諸君と直に接して参りました。年々、学生の気質も多面において様変わりしていることを強く感じますが、一人でも多くの学生を人間味溢れる歯科医師へと、卒業までに育成することが学生部長としての最低限の責務であることを改めて痛感しております。

120年近い歴史ある本学に、歯科医師を目指す大きな志を持ち入学してきた学生諸君に対して、教務部とともに表裏一体となり、教育面のみならず修学面においても、人格形成を行なうことが、主要な職務と考えております。

近年、医療人に対して高いモラルが求められる傾向にあり、特に医歯薬系学生が法に反した場合や、モラルの欠如した行動をとった場合には、社会的に強い批判を受けます。歯学教育におきましては、客観的臨床能力試験(OSCE)や、実際に卒前臨床実習において患者様とのコミュニケーション能力を身につけなくてはならず、社会常識やマナーの陶冶は重要な課題であります。また、これからのチーム医療等を鑑みます

と、強いリーダーシップも必要不可欠であり、その養成のための的確なアドバイスを状況に応じてしていければと考えております。

これまで永年にわたりご尽力いただきました、平井義人前学生部長のご功績を礎に、学生副部長に矢島安朝教授、中村光博教授、茂木悦子准教授を配し、小倉 等学生課長、吉田成彦学生係長をはじめとする学生課職員とともに、修学指導に努めてまいり所存でございます。また、直に学生諸君とコミュニケーションをとられる各学年主任・副主任の皆様を中心とした全教職員ならびに保護者の皆様のご協力をお願いして、就任の挨拶とさせていただきます。

学内ニュース

博士(歯学)学位記授与
第563回(平19.6.13)授与

第519回(H15.6.11)合格

野中 育(法歯・甲)第1562号・甲881号

第548回(H18.2.15)合格

清水 崇雪(補綴・甲)第1657号・甲953号

第559回(H19.2.14)合格

藤波 弘州(歯周病・甲)第1713号・甲996号

第283回東歯学会(例会)開催

平成19年6月2日(土)千葉校舎において東京歯科大学学会(例会)が開催された。口演25題の会場は第1・2教室で、示説16題はラウンジ2・3を会場として発表された。また、午後1時から、以下3題の特別講演が行われた。

1. 「口腔癌の制御に向けて」
柴原孝彦教授(東歯大・口腔外科)
2. 「脳神経外科における低侵襲医療」
菅貞郎教授(東歯大・市病・脳神経外科)
3. 「悪性腫瘍治療前の精子凍結保存」
石川博通教授(東歯大・市病・泌尿器科)

また、参加13商社による商品展示が第1ラウンジで行われた。

天野大地大学院生がISTD Presentation Awardを受賞

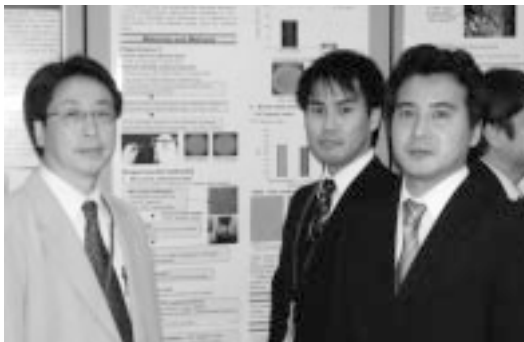
6th International Symposium on Titanium in Dentistry (ISTD)が、平成19年6月5日(火)から6日(水)に、国立京都国際会館にて開催された。この学会で有床義歯補綴学講座の天野大地大学院

生は、「Development of Antibacterial Denture Base Coated with Titanium Dioxide」と題するポスター発表を行い、The 6th ISTD Presentation Awardを受賞した。発表内容は、義歯床用レジンに二酸化チタンコーティングを施した際の微生物の付着抑制効果とブラッシング清掃に対する耐久性を検討したもので、義歯への防汚作用の付与に二酸化チタンコーティングが有効であることが示唆された。なお共同演者は有床義歯補綴学講座の櫻井 薫教授、杉山哲也講師、上田貴之講師、新井貴博大学院生および歯科理工学講座の小田 豊教授と武本真治助教である。

第248回大学院セミナー開催

平成19年6月8日(金)午後5時より千葉校舎第2教室において、第248回大学院セミナーが開催された。今回は九州歯科大学口腔顎顔面外科学講座 形態機能再建学分野 高橋 哲教授を講師にお迎えして「ディストラクションの生物学的メカニズムと口腔・顎顔面領域への応用粘膜免疫システムの特徴と重要性」と題する講演を伺った。

近年再生医療が注目される中、仮骨延長法(歯槽骨延長法、ディストラクション・オステオジェネシス)が新しい骨増生法として注目されている。本方法は、骨折の治癒過程で形成される仮骨を応用した一種の再生治療であり、骨採取を必要とせず、理論的には延長量に限界が無く、歯肉など粘膜の延長も可能であり、さらに術式が比較的単純で、術後の骨吸収が少ないなど多数の利点を有する。本講演では、ディストラクシ



受賞した天野大学院生(中央):平成19年6月5日(火)、国立京都国際会館



講演される高橋教授:平成19年6月8日(金)、千葉校舎第2教室

ンのメカニズムから、種々の疾患への応用までをご紹介いただいた。質疑・応答の時間が30分以上に及んだことが示すように大変わかりやすく有益なご講演であった。

金子 譲学長就任懇親会開催

金子 譲学長就任懇親会が、平成19年6月12日(火)午後6時30分から、ホテルニューオータニ幕張「鶴西の間」において開催された。本法人役員、本学全施設の教授、准教授、医療系及び事務系の管理職者など、本学関係者が多数参加しての懇親会となった。

小田 豊教務部長の司会により始まった会は、まず井上 裕理事長のお祝いの言葉があり、次いで、金子学長からご挨拶があった。金子学長からは「学校法人の中で大学の使命を全うし、3病院と力を合わせ全教職員が一体となり全力を尽くすことによって、輝かしい東京歯科大学の歴史に繋げたい。」と述べられた。

挨拶のあと、市川総合病院安達富美子看護部長より、教職員を代表して花束贈呈があり、続いて熱田俊之助法人常務理事のご挨拶とご発声



学長就任のお祝いの挨拶をされる井上理事長：平成19年6月12日(火) ホテルニューオータニ幕張



安達看護部長よりお祝いの花束を受け取られる金子学長：平成19年6月12日(火) ホテルニューオータニ幕張

で、金子学長の二期目のさらなるご活躍と大学のさらなる発展を祈念し、参加者一同乾杯をおこなった。その後、和やかに会は進行し、永井隆夫事務局長の言葉をもって懇親会は散会となった。

平成19年度学生健康診断実施

平成19年度学生健康診断が以下のとおり実施された。

第1学年及び第2学年学士編入者

実施日：6月12日(火)

実施項目：身長、体重、視力、聴力、検尿、採血、血圧、X線撮影、内科、歯科診断、心電図、ツベルクリン反応検査

第2学年(学士編入者を除く)

実施日：6月7日(木)

実施項目：身長、体重、視力、検尿

第3学年

実施日：6月7日(木)

実施項目：身長、体重、視力、検尿

第4学年

実施日：6月12日(火)

実施項目：身長、体重、視力、検尿、採血、X線撮影、内科、歯科診断

第5学年

実施日：6月14日(木)

実施項目：身長、体重、視力、検尿、採血

第6学年

実施日：6月14日(木)

実施項目：身長、体重、視力、検尿、X線撮影

平成19年度実験動物供養祭

平成19年6月15日(金)午前10時40分より、千葉校舎基礎棟1階第2ラウンジにおいて平成19年



焼香する学生・教職員：平成19年6月15日(金) 千葉校舎基礎棟第2ラウンジ

度実験動物供養祭が執り行われた。

供養祭は、廣徳院住職の読経に始まり、薬師寺仁副学長が祭文を奉読された後、歯科医学の教育・研究に生命を捧げた動物諸霊に対し哀悼と感謝の意を込め、教職員、大学院生、臨床研修歯科医、第3学年学生全員が順次焼香を行い、滞りなく終了した。

入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成20年度入試ガイダンスが平成19年6月16日(土)午後2時から水道橋校舎血脇記念ホールで開催された。

ガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の歴史・教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、卒業進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成17年度に文部科学省より選定を受けた特色GP、現代GPの概要等について紹介し、また、平成20年度入学試験の概要について説明した。その後、水道橋教職員の案内により病院見学を行い、希望者については教務部・学生部の教員との個別面談を実施した。当日は36名の参加があり、本学の情報を得ようという熱気に溢れ、盛況なガイダンスとなった。

今後のガイダンスは、7月28日(土)、10月6日(土)に水道橋校舎で、8月23日(木)、11月3日(土)に千葉校舎で実施する予定である。8月23日(木)は体験実習、模擬授業、キャンパスツアー等を行い、11月3日(土)は東歯祭(大学祭)開催中に実施し、大学の雰囲気存分に味わっていただく予定である。

第249回大学院セミナー開催

平成19年6月18日(月)午後5時より千葉校舎第2教室において、第249回大学院セミナーが開催された。今回は順天堂大学医学部免疫学講座竹田和由准教授を講師にお迎えして「TRAIL/DR5による腫瘍サーベイランスと治療への応用」と題する講演を伺った。

頸部や口腔領域のがんは、手術摘出による極めて大きな欠損を余儀なくされQOLの低下をもたらす。抗がん薬による治療に加えて免疫療法がminimum interventionとしても注目されている。

そのような背景の中、今回お話いただいたのはNature Medicineに連続して発表された内容でTumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand (TRAIL)によるがん細胞アポトーシス誘導でがんを治療するという戦略である。TRAILはtumor necrosis factorやアポトーシス誘導するFas Ligandとの遺伝的相同性から見いだされた分子で、細胞死誘導レセプターDR4やDR5を介してがん細胞に選択的に細胞死をもたらすものである。trimAbと名づけられた、がん細胞死をもたらす抗DR5抗体と、免疫活性化をもたらす抗CD40抗体および抗CD137抗体との3抗体併用療法の臨床応用が期待される。

竹田先生は東北大学歯学部で口腔外科学大学院を修了され、DDSであって一般医学のバイオニア研究者として高い評価を受けている。歯科医師ならではの取り組むべき研究があり、大学院生に「高い志と夢をもって」研究に取り組んでほしいとの啓発もされた。



講演される竹田准教授：平成19年6月18日(月)、千葉校舎第2教室

第65回歯科医学教育セミナー開催

平成19年6月25日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第65回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、メディア教育開発センターの清水康敬理事長を講師にお迎えし、「e-Learningの大学教育への活用について」と題した講演を伺った。

まず始めに、大学全入時代、新入生の学力低下の状況に対してどのように大学教育の質の向上を図っていくか、そこでe-Learningはどのように活用されていくかについてご説明いただいた。e-Learningの質を高めるための視点として、開発段階における視点、運用時の教員、学生に対す

る視点、大学の基本理念との関係に関する視点、評価からの視点を挙げられた。また、授業において情報を提供する場合の提示方法の違いによる記憶情報量の差についてご説明いただき、言葉だけでなくメディアの利用により学生の理解度が高くなることを示された。しかし、ただメディアを利用すればいいという訳ではなく効果的な方法を考えながら提示していくことが大事であるとのことであった。

次に、e-Learningにおける著作物の利用についての考え方、注意点等ご説明いただいた。授業における複製の使用、試験問題として複製する場合の原則、著作物の引用をする場合の注意点等、本学における授業、試験での著作物の使用において大変参考となるお話をお伺いした。

当日は120名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



講演される清水理事長：平成19年6月25日(月)、千葉校舎第2教室

第250回大学院セミナー開催

平成19年6月27日(水)午後5時より千葉校舎第1教室において、第250回大学院セミナーが開催された。今回は財団法人癌研究会癌研究所蛋白質創製研究部の芝 清隆部長を講師にお迎えして「歯科領域におけるタンパク質創製の応用」と題する講演を伺った。

歯科領域の特徴である、生物学と材料科学をインターフェイスする「人工タンパク質」の創製に焦点をあてての研究を中心に話され、インプラント表面へのチタン結合ペプチドに「骨化誘導タンパク質」を融合することにより、チタン表面に骨化誘導能力を賦与できる可能性を示唆された。また「チタン結合ペプチド」と「カーボンナノ化合物結合ペプチド」をあわせ持つペプチドを用い

て、カーボンナノ化合物をチタン表面に担持することもでき、無機物結合ペプチドをチタンインプラントの表面改質に利用すれば、より良いインプラントの開発につながることを力説された。講演後多くの質疑応答がなされ、大変内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される芝部長：平成19年6月27日(水)、千葉校舎第1教室

市川総合病院医療安全講演会開催

平成19年6月28日(木)午後5時30分より、市川総合病院講堂において、市川総合病院医療安全講演会が開催された。

市川総合病院では、今年度より医療安全に関わる組織の位置づけや、専従医療安全管理者の配置等、医療安全管理体制の強化を進めている。今回の講演会は「当院におけるこれからの医療安全対策」をメインテーマとして、医療安全管理室長である島本佳憲准教授(脳神経外科)により「これからの医療安全対策」、専従医療安全管理者である佐藤和子看護師長により「専従リスクマネージャーの役割」について講演が行われた。最後に、市川総合病院の顧問弁護士である児玉安司先生による「医事紛争の10年をふりかえって」と題した特別講演が行われた。

児玉弁護士は医学博士でもあり、公職として厚生労働省の死因研究に関する検討会委員としてもご活躍中で、多くの医療に関わる訴訟や調停に関わられている豊富な経験を活かした講演であった。

当日は、教員29名、コメディカル13名、看護師103名、事務職員16名、そして千葉校舎と水道橋校舎から11名と、総参加者数は172名に上った。これは、近年、報道される医療事故が増加していることなどにより、医療関係従事者としての

関心の高まりを表していると言えよう。

各講演の合間にフロアからの質問も相次ぎ、講演会は盛会のうちに終了した。



医療安全講習会：平成19年6月28日（木）、市川総合病院講堂

第2回東京歯科大学公開講演会開催

平成19年6月30日（土）午後2時から、第2回東京歯科大学公開講演会が、本学講堂において開催された。本公開講演会は、昨年と同様に、地元千葉市美浜区真砂の関係団体（真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会）との共催で行われたが、今回は磯辺、高浜、高洲の各地区の自治体の方々にもご協力を頂いての開催となった。

当日は、橋本貞充准教授の司会進行のもと、本学より薬師寺 仁副学長、そして共催団体を代表して佐藤 明会長よりご挨拶をいただき、次の二講演が行われた。

講演 『いつまでもおいしく食べよう』

- 摂食・嚥下のメカニズム -
- 解剖学講座 井出 吉信 教授

講演 『歯を丈夫に保つ秘訣』

- 子どものむし歯から歯周病予防まで -
- 衛生学講座 松久保 隆 教授

講演 では、摂食と嚥下のメカニズムについて、多くの貴重な写真や動画を利用してわかりやすく説明が行われた。また、嚥下障害を防ぐための筋トレーニング法（嚥下体操）や嚥下しやすい食品の紹介とその摂取の仕方など、実生活に役立つ情報も紹介された。講演 では、歯に関する多くのデータや配布した資料に基づいての自分の歯の現状・将来を知り、生涯にわたって自分の歯でおいしく食べるための具体的な歯

科予防等についての説明が行われた。特に咀嚼力判定ガムを実際に噛んで、自分の咀嚼能力を判定するという実験は、参加者は興味を持って実践していた。

約280名の参加者を集めた今回の講演会は、みな熱心に受講しており、それぞれの講演終了後には活発な質疑応答が行われ、参加者一同は大変満足した様子で午後4時15分、盛会のうちに終了した。また、講演後によせられたアンケートにおいては「興味深い内容の講演でとても勉強になった」、「今後もこのような講演会を継続して行って欲しい」など、多数の好評なご意見を得ることができた。



講演する井出教授：平成19年6月30日（土）、千葉校舎講堂



講演する松久保教授：平成19年6月30日（土）、千葉校舎講堂

澁澤真美大学院生 研究奨励賞を受賞

昨年（平成18年度）第17回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会が岩手県盛岡市で開催された。その学術大会において、スポーツ歯学研究室の澁澤真美大学院生（4年）が、学術展示において「スキューバダイビング用マウスピースのアンケート調査」と題する発表を行い、研究奨励賞を受賞し、平成19年6月30日～7月1日に沖縄県那

覇市で開催された第18回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会において表彰された。研究発表内容は、ダイバーを対象にスキューバダイビング時のスキューバダイビング用マウスピースの顎関節およびその周囲への影響を検討したものであり、スキューバダイビング用マウスピースの長期使用は、顎機能障害を発症させる可能性がある」とされている。さらに、スキューバダイビング後に顎関節周囲の筋肉の違和感・顎関節の痛み等が起こったという事をスキューバダイバーよりよく耳にするとところから、その使用後の顎関節への影響を検討したものである。



受賞した澁澤大学院生と今大会の正装“かりゆし”着用の上石教授

訃報 松井隆弘名誉教授ご逝去



本学名誉教授（組織学・現口腔超微構造学講座）松井隆弘先生は、平成19年6月22日（金）午前7時40分、大動脈弁狭窄症による急性心不全のため逝去された。享年96歳。

松井先生は、昭和7年に本学の前身である東京歯科医学専門学校を卒業後、直ちに同校副手となり、助手、講師、助教授を経て昭和22年4月に教授に昇任し、組織学および口腔組織学を担当された。そして昭和51年1月の定年退職と同時に鶴見大学歯学部教授に就任し、同じく組織学および口腔組織学を担当し、昭和56年3月に鶴見大学を定年退職するまでの50年間にわたり歯科教育および研究に従事された。一方、学業については、語学の勉強のため、学校より依託生として派遣され、東京外国語学校（現東京外語大）独語部専修科を卒業後、独語部選科第4学年を修了された。さらに明治大学法学部を卒業して、専門である基礎医学の基礎固めと共に大学事務兼務職の任を果たされた。また、組織学および口腔組織学主任教授として、学生の教育ならびに歯科医学の研究指導に従事し、組織学の権威者として学界に多大の貢献をされた。なお、「象牙質基質殊にエーペネル氏層板等について」の論文は、東

京帝国大学医学部に提出され、医学博士の学位を授けられるとともに、国内外で高く評価された。

先生の活動は、学内だけにとどまらず、文部省全国厚生補導研究会運営委員、文部省学術（奨励）審議会専門委員等の公職を、その学術経験を生かして遺憾なく発揮され、それぞれの責務を全うされた。また、学会面においては、昭和34年4月に歯科基礎医学会を創設して理事に就任後、同会総会会長、理事長に選任され、同学会の発展および充実に寄与しその重責を果たされた。さらに昭和47年4月から日本歯科医学会の副会長として、同学会を今日の隆盛に発展させた功績は関係者の均しく認めるところである。一方、先生は亡くなるまで、全国私学共済年金者連盟の理事として年金者の生活安定を図るとともに、全私学新聞運営委員会の監事として、私立学校教育の振興に情熱を傾けてこられた。

ところで先生は、早寝早起がモットーで、御日様が大好きであった。その先生が、昼の一番長い夏至に旅立ったのは不思議な縁を感じさせる。

通夜は6月25日（月）午後6時から、告別式は6月26日（火）午前11時から、東京都練馬区の江古田斎場でしめやかに執り行われた。

なお、歯科医学の教育者として歯科教育界に尽力した功績等により、昭和58年春の叙勲において勳三等瑞宝章を授与され、さらに没後、正五位に叙された。

京帝国大学医学部に提出され、医学博士の学位を授けられるとともに、国内外で高く評価された。

先生の活動は、学内だけにとどまらず、文部省全国厚生補導研究会運営委員、文部省学術（奨励）審議会専門委員等の公職を、その学術経験を生かして遺憾なく発揮され、それぞれの責務を全うされた。また、学会面においては、昭和34年4月に歯科基礎医学会を創設して理事に就任後、同会総会会長、理事長に選任され、同学会の発展および充実に寄与しその重責を果たされた。さらに昭和47年4月から日本歯科医学会の副会長として、同学会を今日の隆盛に発展させた功績は関係者の均しく認めるところである。一方、先生は亡くなるまで、全国私学共済年金者連盟の理事として年金者の生活安定を図るとともに、全私学新聞運営委員会の監事として、私立学校教育の振興に情熱を傾けてこられた。

ところで先生は、早寝早起がモットーで、御日様が大好きであった。その先生が、昼の一番長い夏至に旅立ったのは不思議な縁を感じさせる。

通夜は6月25日（月）午後6時から、告別式は6月26日（火）午前11時から、東京都練馬区の江古田斎場でしめやかに執り行われた。

なお、歯科医学の教育者として歯科教育界に尽力した功績等により、昭和58年春の叙勲において勳三等瑞宝章を授与され、さらに没後、正五位に叙された。

トピックス

Per-Ingvar Brånemark教授に本学名誉学位記が授与される

平成19年6月13日(水)大学院研究科委員会において、スウェーデン王国イエテボリ大学医学部、歯学部解剖学元教授 Per-Ingvar Brånemark教授に金子 譲学長より名誉学位記が授与され、小宮山彌太郎オーラルメディスン・口腔外科学講座臨床教授が代理で受け取られた。故高木圭二郎学長、高橋庄二郎教授、故関根 弘学長らの尽力により1983年6月7日に本学において日本で初めてインプラントのブローネマルクシステムの臨床応用が開始され、その際、Brånemark教授は千葉病院ならびに水道橋病院で8症例のインプラント埋入手術を行った。さらに翌年来日時にも本学で4症例の手術を行った。小宮山臨床教授によると、Brånemark教授には複数の他大学から名誉学位授与の申し入れがあったが、教授は日本でのパイオニアである本学との関係を大切にしたいとの意向で、本学以外からの名誉学位授与のお話は



金子学長よりBrånemark教授に授与された名誉学位記を受け取る小宮山臨床教授：平成19年6月13日(水) 千葉校舎第1会議室



名誉学位記を授与され喜びの表情のBrånemark教授：平成19年6月29日(金) スウェーデン・イエテボリ

受けるつもりがないと明言されていたとのことである。

6月29日(金)にスウェーデン・イエテボリでBrånemark教授の活動を支援するための学会が開催された。同日夕刻には教授の誕生日を祝う会が開かれ、小宮山臨床教授が金子学長の代理としてBrånemark教授に名誉学位記をお渡した。世界各国より参集した100名を超える参加者から祝福を受け、日本でのパイオニアである東京歯科大学からの名誉学位授与をととても喜ばれていたと、小宮山臨床教授から金子学長に報告された。

水道橋病院診療科の統廃合と病院長補佐役の新設

予てより、水道橋病院は基幹的歯科病院構想による病院機能機構改革に取り組んでいるが、その一環として診療効率向上を図るために、保存科・補綴科・総合歯科を総合歯科に統合した。新設の総合歯科は6チーム編成とし、各々にリーダーを置いたチーム診療体制として評価制を導入した。

また、水道橋病院は狭い施設内に病院組織と講座運営が複雑に錯綜するため、運営を円滑にすることを目的に、新たに病院長実務を補佐する病院長補佐役(院内役職)を設けた。なお、新任病院長補佐には、古澤成博准教授・福田謙一准教授の2名を任命した。

海外交流

ロシア モスクワ国立医科歯科大学との姉妹校協定締結

平成19年6月5日(火)、本学とロシア、モスクワに所在するモスクワ国立医科歯科大学との姉妹校協定が同大学において締結された。締結式には、本学から井上 裕理事長、金子 譲学長、井上 孝国際渉外部長、加藤靖明法人庶務課長が列席。モスクワ国立医科歯科大学からは、Yanushevich副総長はじめ関係者が出席した。

はじめにYanushevich副総長からモスクワ国立医科歯科大学を代表して挨拶があり、これを受けて井上理事長から、「両国のそれぞれ歴史を有する二つの歯学部が、姉妹校関係を結び、両国の歯科医学・歯科医療の発展・充実に向かって互いに協力しあうことは、大変意義深いことであり、本日の締結式を契機として、従前に増して友好関係を深めていきたい。」と挨拶された。

つぎにYanushevich副総長からの挨拶に続き、金子学長から、「モスクワ国立医科歯科大学と本

学とは、従前から人事交流、共同研究などの友好関係を築いてきた。本日ここに姉妹校としての協定を正式に結び、今後更にお互いの研鑽に励みたい。」と挨拶された。

つぎに、Yanushevich副総長、井上理事長、金子学長により協定書への署名が行われ、引き続き記念品の交換、最後にYanushevich副総長、井上理事長から、それぞれ感謝の言葉が述べられ、締結式は約1時間で終了した。

全行程を通じ、モスクワ国立医科歯科大学を挙げての手厚い歓迎に感謝し、翌6月7日(木)一行は空港から帰国の途についた。

台北県八里愛心教養院職員等来校歓迎式・病院見学

台北県八里愛心教養院関係者60名が平成19年6月23日(土) 日本の障害者に対する口腔内治療を見学し、台北県八里愛心教養院の口腔保健水準を高め、職員の業務遂行の参考とするため来



姉妹校締結書署名後の記念撮影：平成19年6月5日(火)、モスクワ国立医科歯科大学



歓迎式での記念撮影：平成19年6月23日(土)、千葉校舎第1会議室



本学からの記念品の日本人形を贈呈：平成19年6月5日(火)、モスクワ国立医科歯科大学



千葉病院を見学する台北県八里愛心教養院職員：平成19年6月23日(土)、小児歯科診療室

校された。

一行は午前9時30分にバスで到着し、午前10時より第1会議室の歓迎式に出席した。井上 孝国際渉外部長の司会進行のもと、金子 譲学長の挨拶ならびに蔡 鵬飛台湾障害者歯科学会会長の挨拶が行われ、各々の出席者が紹介された。その後、記念品贈呈、記念撮影を行い、歓迎式は滞りなく終了した。

引き続き一行は5つのグループに分かれ、歯科麻酔科及び小児歯科の医局員の引率により、千葉病院の病棟、歯科麻酔科診療室、小児歯科診療室、総合受付を見学した。

見学後、第1会議室において和やかな雰囲気のもと昼食会が開催され、午後1時に全てのプログラムを終了した。

図書館から

「Books Pick UP」

平成19年7月7日より「研究法 & 研究デザイン」に関しての本をテーマとして掲示します。この掲示内容はホームページ上の「テーマ別図書リスト」からも、閲覧可能です。

図書館では年4回、テーマを決めて、図書資料のポスター掲示とホームページ上への掲載を行っています。

次世代学術コンテンツ基盤共同構築の委託事業(機関リポジトリ)に採択

国立情報学研究所が公募した『平成19年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業』に本学が採択されました。大学からの情報発信力を強化し、大学における教育研究活動の可視性を高めることによって、大学の社会的説明責任を果たすことを目的として、大学の独自性を生かした機関リポジトリの構築・運用を推進する事業です。

本事業では、国立大学が74大学、私立大学は13大学が採択され、歯科の単科大学としては初の採択となりました。

本学研究者の皆様には機関リポジトリの構築・運用につきまして、これからもご理解とご協力をお願いいたします。

・関連リンク

東京歯科大学学術機関リポジトリ

<http://www.tdc.ac.jp/lib/ir/>

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/>

・19年度委託大学リスト

<http://www.nii.ac.jp/irp/info/2007/partners.html#ryoiki1tsuika>

PubMed検索における推奨環境について

PubMedのEntrez2.0へのバージョンアップに伴い、MacintoshのInternet ExplorerによるPubMed検索に不具合が報告されています。MacintoshでInternet Explorerをご利用の方はSafari、Firefox等のブラウザに変更することをお勧めします。

PubMed検索における推奨環境は以下の通りです。

- ・ Windows: IE 7.0, IE 6.0, Firefox 2.0, Opera 9, Netscape 8.2
- ・ Macintosh: Safari 2.0 on OSX 10.4, FireFox 2.0 on OS X 10.2-10.4, Opera 9
- ・ Solaris (Sun OS 10): FireFox 2.0, Opera 9

関連リンク：

- ・ Mac用IE、12月31日にサポート終了

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/0512/19/news032.html>

・ What web browsers has PubMed been reliably tested on?
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query/static/faq.html#rowsers>

大学史料室から



史料室収蔵品紹介 奥村鶴吉先生(中央)と野口英世博士(右端) [ガラス乾板より]

国際渉外部レポート

ベルリンで開催された留学フェアに参加

平成19年5月12日(土)、ベルリンで開催された留学フェア・Study World 2007に、国際渉外部運営委員として橋本正次教授が参加した。このフェアは、海外への留学を希望する学生を対象に毎年開かれるものであり、そこで東京歯科大学を紹介し、将来の留学生獲得に先鞭をつけるべく、今回初めて参加した。限られた時間ではあったが、ヨーロッパを中心におよそ140の機関や大学が参加する中から、医科歯科系の学部を持つ大学の展示ブースをまわり、さまざまな情報を収集した。今後は、それらの資料を参考に、留学生を募集するにはどのような情報を公開するのが望ましいか検討し、また、こうした留学フェアがアジアで開催されることがあれば、積極的に参加していく予定である。

英国Sheffield大学より選択学習学生来校

平成19年6月9日(土)より16日(土)まで、英国Sheffield大学歯学部5年生、Pavitraj Pandher君とSachin Patel君の2名が、選択学習(Elective Study)のため見学生として来校した。選択学習の一環として来日を希望するメールは、英国・香港を中心に毎年数件来るが、今回来校した2名の場合、問い合わせのあった昨年8月以降、希望内容などをメールで確認し、国際渉外部として初めて受

け入れが実現したものである。彼らは9日の夜に市川宿舎に到着し、翌10日、井上孝国際渉外部長(茶道部副部長)の案内で、靖国神社で行われた関東歯科茶道連盟主催のお茶会に参加し、日本の伝統文化を楽しんだ。11日は千葉病院および学内を見学し、12日は開業医の医院を見学した。14日は金子譲学長と面会しCertificateを受領した後、中川寛一教授の指導のもと、顕微鏡下における歯内療法を見学した。15日は、市川総合病院オーラルメディスンにて手術見学を行い、感謝の意を述べて選択学習を終えた。今回の学習内容は、彼らの希望に沿った概括的なものだったが、今後は各部署と連携してカリキュラムを整え、留学生の獲得や各国の大学と交流を深めるきっかけにしたい。



金子学長よりCertificateを受領したSheffield大学の選択学習学生：平成19年6月14日(木)、学長室

人物往来

海外出張

阿部伸一准教授(解剖)

Binzhou Medical Collegeで講演のため、6月3日(日)から5日(火)まで、中国・煙台へ出張。

篠崎尚史センター長(角膜センター)

The Transplantation Society、The Spanish national transplant organization及びWHO会議に出席のため、6月3日(日)から10日(日)まで、スイス・ジュネーヴへ出張。

井上 裕理事長、金子 譲学長、井上 孝国際渉外部長、加藤靖明法人庶務課長

モスクワ国立医科歯科大学との姉妹校協定締結のため、6月4日(月)から8日(金)まで、ロシア・モスクワへ出張。

薬師寺 仁教授(小児歯科)

第四軍医大学口腔医学院で講義及びラバードム実習指導のため、6月4日(月)から8日(金)まで、中国・西安へ出張。

眞木吉信教授(衛生)

韓国予防歯科学会及び韓国老年歯科医学会で講演のため、6月8日(金)から11日(月)まで、韓国・ソウルへ出張。

ビッセン弘子教授(水病・眼科)

Societas Ophthalmologica Europeaで発表のため及び、多焦点眼内レンズ研究会に参加のため、6月8日(金)から16日(土)まで、オーストリア・ウィーン及びドイツ・フランクフルトへ出張。

吉成正雄准教授(歯科理工)

Heraeus Kulzer Scientific Board 2007 "Biofunctionale Surfaces"における講演のため及び研究打合せのため、6月14日(木)から19日(火)まで、オーストリア・ザルツブルグ、シェルアムゼーへ出張。

石上恵一教授(スポーツ歯学)

46th Korean Dental Association Scientific Congressで講演のため、6月15日(金)から17日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

山根源之教授、高市真之大学院生(市病・オーラルメディスン)

Congress of Korean Dental Association in Seoulで講演及び講演会参加のため、6月15日(金)から16日(土)まで、韓国・ソウルへ出張。

柳澤孝彰教授(口腔超微構造)

齲蝕予防についての講演のため、6月16日(土)から18日(月)まで、中国・天津へ出張。

天谷哲也講師、岡田 崇大学院生(保存修復)

国際幹細胞学会に出席するため、6月16日(土)から21日(木)まで、オーストラリア・ケアンズへ出張。

篠崎尚史センター長(角膜センター)

アメリカアイバンク協会国際会議、WHO国際会議に出席のため及び、パイオテロリズムミーティングのため、6月19日(火)から7月6日(金)まで、アメリカ・ツーソン、ニューヨーク及び、イタリア・ローマへ出張。

田中一郎准教授(市病・皮膚科)

第4回国際再建マイクロサージャリー学会で発表のため、6月22日(金)から29日(金)まで、ギリシャ・アテネへ出張。

佐野 司教授、田辺耕士大学院生、矢島あや大学院生、井本研一大学院生(歯科放射線)

16th International Congress of Dento Maxillo Facial Radiologyで発表のため、6月25日(月)から30日(土)まで、中国・北京へ出張。

作間 巧大学院生(口腔外科)

インドネシアの歯科従事者の技術・知識向上を目的としたSeminar & Table Clinicへ参加のため、6月28日(木)から7月4日(水)まで、インドネシア・バリ州へ出張。

大学日誌

平成19年6月

1(金) 教務部(課)事務連絡会

1(金) 学長就任式〔於：講堂〕

省エネルギーの日・防災安全自主点検日

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1(金) 市川総合病院長就任挨拶(市病) | 14(木) 薬事委員会(市病) |
| 2(土) 第283回東歯学会(例会) | 手術室運営委員会(市病) |
| 4(月) 院内感染症予防対策委員会勉強会(市病) | 病院幹部会(水病) |
| 水道橋病院長就任挨拶(水病) | 15(金) 実験動物供養祭 |
| 5(火) 看護部運営会議(市病) | 環境清掃日 |
| 6(水) リスクマネージメント部会 | 危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 感染予防対策委員会(ICT) | 16(土) 入試ガイダンス〔於：水道橋校舎〕 |
| MRSA院内感染対策委員会 | ピアノコンサート(市病) |
| 輸血療法委員会 | 18(月) 第249回大学院セミナー |
| 臨床検査部運営委員会 | 医療連携委員会 |
| 千葉校舎課長会 | 19(火) 教養科目協議会 |
| 口腔健康臨床科学講座会(水病) | 看護部運営会議(市病) |
| 7(木) 学生健康診断(第2・3学年) | 医療安全管理委員会(水病) |
| 前期定期健康診断(～8日)(水病) | 感染予防対策委員会(水病) |
| 8(金) 第248回大学院セミナー | 個人情報保護委員会(水病) |
| CPR + AED講習会(市病) | 科長会(水病) |
| ICT委員会(市病) | 20(水) 5年生前期定期試験(2日目) |
| 学長就任挨拶(水病) | 機器等安全自主点検日 |
| 11(月) 大学院事務連絡会 | 輸血療法委員会(市病) |
| 病院運営会議 | 21(木) 千葉校舎課長会 |
| 個人情報保護委員会 | 先進医療推進委員会 |
| 医療安全管理委員会 | 医療安全管理委員会(市病) |
| 感染予防対策委員会(ICC) | 部長会(市病) |
| 臨床教育委員会 | 管理診療委員会(市病) |
| 医局長会 | 22(金) 社保委員会(水病) |
| 医療安全研修会 | 25(月) 給食委員会 |
| 学長就任挨拶(市病) | 第65回歯科医学教育セミナー |
| 12(火) 学生健康診断(第1・4学年) | 26(火) 薬事委員会 |
| 臨床教授連絡会 | データ管理者会議 |
| 全体教授会 | カルテ整備委員会 |
| 人事委員会 | 診療記録管理委員会 |
| 歯科衛生士専門学校1・2・3年生健康診断 | 27(水) 5年生前期定期試験(3日目) |
| 院内褥瘡対策委員会(市病) | 第250回大学院セミナー |
| 13(水) 5年生前期授業終了 | 病院連絡協議会(水病) |
| 基礎教授連絡会 | 診療録管理委員会(水病) |
| 大学院運営委員会 | 院内情報システム検討委員会(水病) |
| 大学院研究科委員会 | 28(木) 情報システム管理委員会 |
| 救急委員会(市病) | 院内感染症予防対策委員会(市病) |
| 検査室委員会(市病) | 医療安全管理講演会(市病) |
| 薬事委員会(水病) | 29(金) 6年生第1回総合学力試験(～30日) |
| リスクマネージメント部会(水病) | 30(土) 第2回東京歯科大学公開講演会 |
| 感染予防指導チーム委員会(水病) | |
| 14(木) 学生健康診断(第5・6学年) | |
| 業務連絡会 | |

平成20年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学(一般公募制)

募集人員 約45名(指定校制推薦を含む)
(全募集人員128名中)

(趣旨)

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

(出願資格)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成19年3月高等学校卒業者及び平成20年3月高等学校卒業見込の者、または、平成18年4月から平成20年3月までに外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- (1) 小論文
- (2) 小テスト〔外国語(英語)・数学・理科(物理・化学・生物から1科目選択)〕
- (3) 面接

出願期間

平成19年11月1日(木)から平成19年11月7日(水)
(期間内必着のこと)

選考日・選考会場

選考日 平成19年11月10日(土)
選考会場 東京歯科大学千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号

合格通知発送日

平成19年11月14日(水)

入学手続

平成19年11月16日(金)から平成19年11月30日(金) 正午まで

一般入試(期)

募集人員 約70名(全募集人員128名中)

試験内容

(1) 学力試験

外国語(英語:英、英、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーション、に共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)

数学(数学:数、数、数A、数B。なお、数Bは数列、ベクトルを出題範囲とする。)

理科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。)

- ・物理:物、物 [ただし、学習指導要領に示された物理のうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
- ・化学:化、化
- ・生物:生、生 [ただし、学習指導要領に示された生物のうち以下のものを除く「(3)生物の集団」]

(2) 小論文

(3) 面接

出願期間

平成19年12月6日(木)から平成20年1月28日(月)
(郵送の場合、必着)
(平成19年12月28日(金)から平成20年1月4日(金)の間は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成20年2月2日(土)
試験会場 千葉会場
東京歯科大学千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号
大阪会場
天満研修センター
大阪市北区錦町2丁目21番

合格発表日

平成20年2月5日(火)午後4時

入学手続

1. 入学金

平成20年2月7日(木)から2月14日(木)正午まで

2. その他の諸経費

平成20年2月7日(木)から2月21日(木)正午まで

一般入試(期)**募集人員** 約15名(全募集人員128名中)**試験内容**

- (1) 学力試験(出題範囲は 期と同じとする。)
- 外国語(英語)
- 数 学
- 理 科(物理・化学・生物のうち1科目を試験場で選択)

(2) 小論文

(3) 面接

出願期間平成20年2月21日(木)から平成20年3月5日(水)
(郵送の場合、必着)**試験日・試験会場**

試験日 平成20年3月8日(土)

試験会場 東京歯科大学水道橋校舎
千代田区三崎町2丁目9番18号

合格発表日

平成20年3月11日(火)

入学手続

平成20年3月13日(木)から3月24日(月)正午まで

学士編入学**募集人員** 若干名

(編入年次)

第2学年4月に編入

(出願資格)

4年制大学を卒業した者および平成20年3月卒業見込みの者

試験内容

- (1) 小論文・小テスト(英語を含む総合試験)
- (2) 面接

出願期間平成19年11月1日(木)から平成19年11月7日(水)
(期間内必着のこと)**試験日・試験会場**

試験日 平成19年11月10日(土)

試験会場 東京歯科大学千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号**合格発表日**

平成19年11月14日(水)

入学手続平成19年11月16日(金)から平成19年11月30日
(金)正午まで**学納金****【推薦入学、一般入試(期・期)、学士編入学】共通**

入 学 金 600,000円(入学時のみ)

授 業 料 3,500,000円

歯学教育充実費 4,300,000円(入学時のみ)

施 設 維 持 費 1,000,000円

合 計 9,400,000円

平成20年度東京歯科大学大学院歯学研究科(博士課程) 学生募集要項

募集人員 34名(社会人特別選抜(若干名)を含む)

入学願書受付期間

第 期 平成19年 9月 3日(月)~平成19年11月16日(金)まで

第 期 平成19年12月 3日(月)~平成20年 2月 8日(金)まで

試験科目

一 般 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)

2) 専攻主科目試験および面接

社会人 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)

2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)

3) 専攻主科目試験および面接

選考日・選考会場

第 期 平成19年11月24日(土)東京歯科大学 千葉校舎

第 期 平成20年 2月16日(土)東京歯科大学 千葉校舎

合格者発表

第 期 平成19年11月30日(金)正午 千葉校舎教務課前掲示板

第 期 平成20年 2月22日(金)正午 千葉校舎教務課前掲示板

学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学 生 会 費 2,000円

施設維持費 100,000円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

受験資格(一般)

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

3) 医科大学または大学医学部を卒業した者。(ただし、この場合歯科理工学講座を除いた歯科基礎系講座・研究室のみを志望できる。)

受験資格(社会人)

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

3) 医科大学または大学医学部を卒業した者。(ただし、この場合歯科理工学講座を除いた歯科基礎系講座のみを志望できる。)

[訂正]

第224号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

11頁 最下段 (誤)五味 由希 (正)五味 由季

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志(委員長)

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文 (平成19年6月現在)

編集後記

この度、金子 譲学長再任に伴いまして、広報・公開講座部長を拝命いたしました。本225号に掲載されております金子学長就任のご挨拶は、「チームワーク」で結んでおられます。皆様方のご協力をいただきまして、この広報をさらに充実してまいりたいと存じますので、向こう3年間よろしく願いいたします。

広報部ではofficialな広報記事として掲載されなかった爽やかで楽しい小記事のほか、一服の味付けとなる写真を恒例により編集後記に掲載してまいります。写真は本学キャンパスに関わる思い出深い場所や、東京と千葉の名所旧跡を考えておりますが、それに纏わる内容と歳時記を織り交ぜながら記していくつもりです。第1回は、由緒ある東京神田の三崎稲荷神社をとりあげてみました。

徳川三代将軍家光が大名の参勤交代を定めたとき、みずから稲荷神社に参詣し、諸大名にもそれを促しました。諸大名は、江戸入りするとき、まずこの稲荷神社に参詣して心身を祓い清め、また国元に帰るときも、ここで道中の安全を祈ったと言い伝えられております。

6月は新緑ですが、秋になると大きな公孫樹が色づき、路上に落ちた銀杏がよく匂ったことが思い出されます。ちなみにご利益は、厄除けと家内安全のほか社運隆盛とされています。

(広報・公開講座部長: 内山健志)



大学広報はPDF版をオンラインで閲覧することができます。
<http://www.tdc.ac.jp/news/index.html>